

## ◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱(デング出血熱)**の報告が1例(女児, 10歳未満)あります。デング出血熱は, 第10週(3月4日～3月10日)以来, 2例目となっています。推定感染地域は国外(タイ)です。  
 デング熱は蚊媒介性のウイルス感染症で, 本年の累積報告数は7例です。「感染症法」が施行された平成11年4月以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(7例)と同数となっています。京都市においては, 平成15年以降, 毎年デング熱の報告があり, 最近では, 平成20年5例, 平成21年2例, 平成22年4例, 平成23年3例, 平成24年7例の報告があります。また, デング出血熱の報告は平成23年1例, 平成24年1例となっています。すべて国外での感染によるものです。
- ・ **侵襲性インフルエンザ菌感染症**の報告が1例(女児, 10歳未満)あります。「感染症法」において, 平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降, 初めての報告となっています。症状は発熱・痙攣・その他(菌血症)です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は不明です。
- ・ **風しん**の報告が5例(男性 4例(10歳未満 1例, 20歳代 3例), 女性 1例(10歳代))あります(第33週追加報告分 1例含む)。本年の累積報告数は208例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 8.0倍となっています。全国の累積報告数も13, 846例と平成24年(2, 391例)と比べて, 約5.8倍となっています。

平成25年 風しん 性別年齢群別累積報告数(京都市)

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	3	5	45	40	33	8	3	137
女性	6	6	28	9	8	7	7	71
合計	9	11	73	49	41	15	10	208

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 3.24(133例)で, 前週に引き続き, 2週連続減少していますが, 依然として, 過去5年平均値を大きく上回っています。今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が9例(散発4例, 家族内5例(第33週に報告された患者の家族1例含む))あり, 3週連続の報告で, 過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 5例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 3例  
 【1月以降の累積報告数 265例(肺結核 143例, その他結核 66例, 潜在性結核感染者 56例)うち喀痰塗抹陽性 86例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 9例【1月以降の累積報告数 31例】
- ・ 四類:デング熱(デング出血熱) 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- ・ 四類:レジオネラ症(ポンティアック熱型) 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症・I期) 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例 4例, 臨床診断例 1例)5例(第33週追加報告分 1例含む)  
 【1月以降の累積報告数 208例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	3.24	133
	② 感染性胃腸炎	1.95	80
	③ ヘルパンギーナ	0.93	38
	④ 水痘	0.59	24
	⑤ 突発性発しん	0.54	22
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

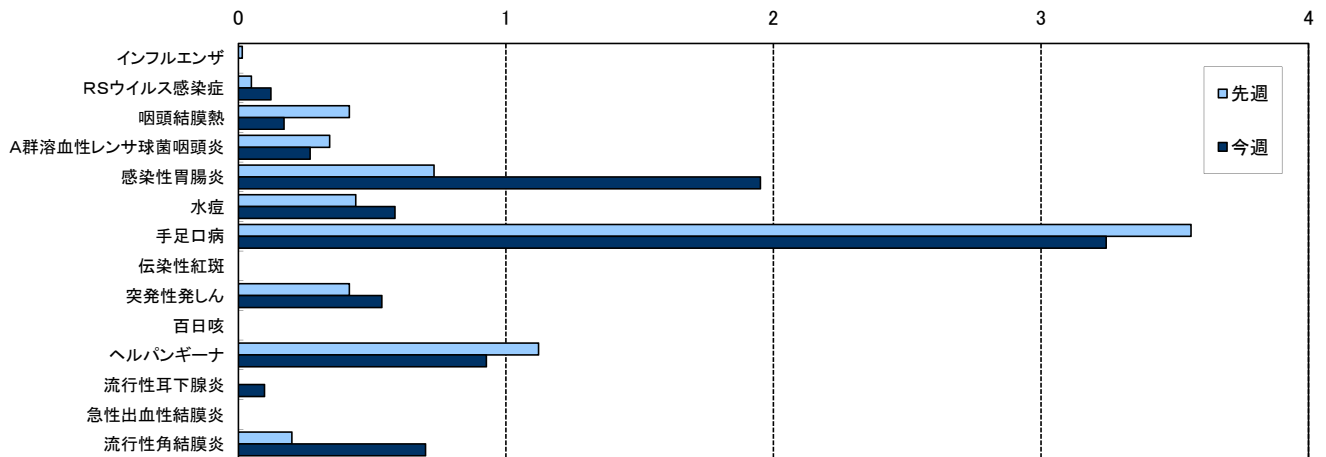
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

(注) 京都市のデータは, 平成25年8月29日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
 また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

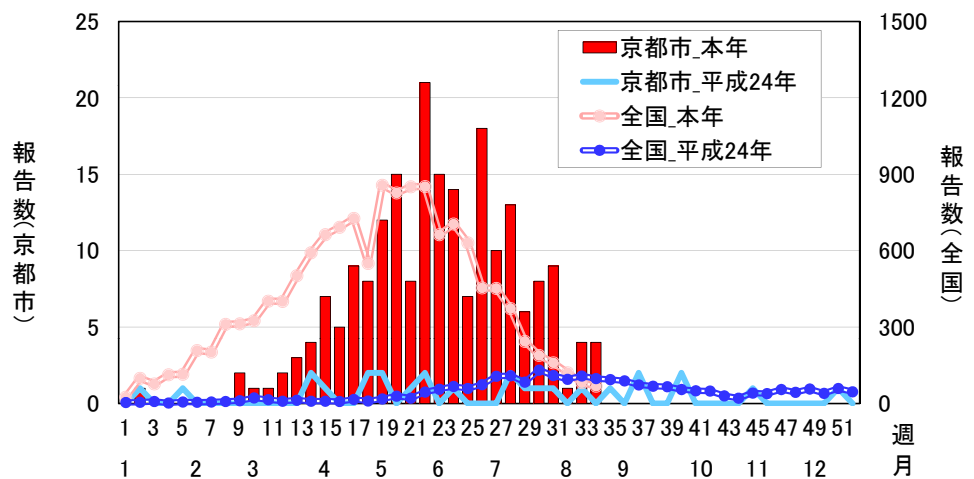
## 1 今週(第34週)と先週(第33週)の定点当たり報告数の比較



## 2 風しんの推移

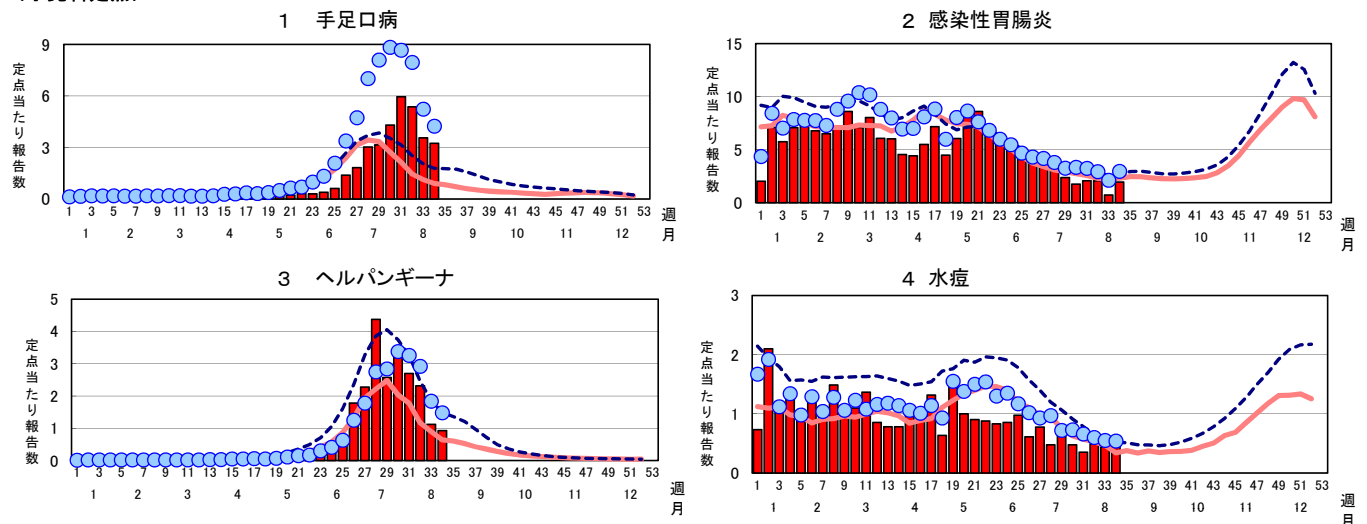
今週の報告数(累積報告数)  
平成25年8月29日現在

京都市	4例 (208例)
京都府(京都市を除く)	1例 (118例)
近畿6府県	31例 (5110例)
全国	68例 (13846例)

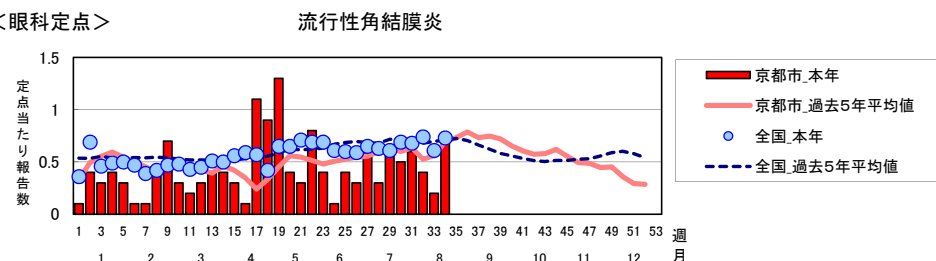


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第34週(8月19日～8月25日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が9例(散発4例, 家族内5例(第33週に報告された患者の家族1例含む))あり, 3週連続の報告で, 過去5年平均値を上回っています。年齢は, 10歳未満3例, 10歳代2例, 20歳代2例, 30歳代1例, 70歳代1例で, 男性5例, 女性4例です。型別は, O157・VT1VT2(7例), O26・VT1(2例)です。

本年の累積報告数は31例となっており, 散発19例, 家族12例で, 性別は女性19例, 男性12例です。報告数の多い年齢群別は, 20歳代8例, 10歳未満7例, 10歳代5例の順となっています。型別は, O157(VT1・VT2)23例, O157(VT1)1例, O157(VT2)2例, O26(VT1)5例となっています。詳細は下記ホームページをご覧ください。

○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>

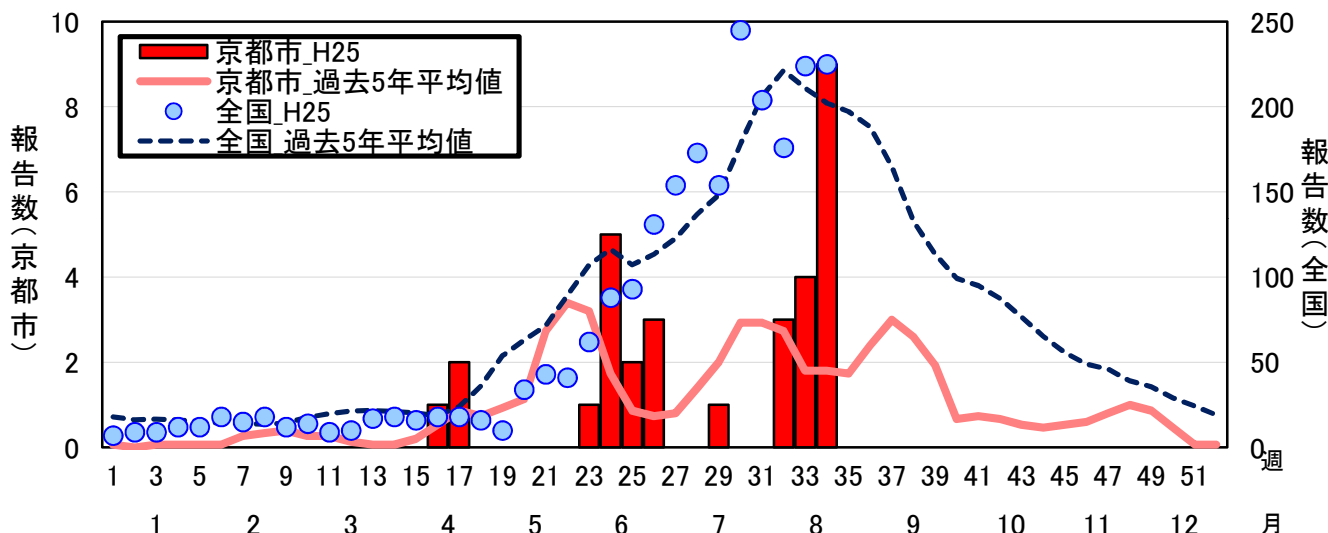
本年6月下旬以降, 全国の社会福祉施設等における腸管出血性大腸菌感染症の集団発生が報告されています。国立感染症研究所感染症疫学センターによると, 特に保育所における集団発生がこれまでに少なくとも10件報告されています。

医療機関におかれましては, 腸管出血性大腸菌感染症を診断された場合は, 速やかに所轄の保健センターに届出していただくようお願い致します。また, 腸管出血性大腸菌感染症報告後にHUSの発症が認められた場合は, 追加報告をお願い致します。

○京都市保健衛生推進室保健医療課のホームページ「医師の届出基準, 届出の様式」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

本市及び全国の報告数の推移



本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	O165	その他
平成21年	93	8		1		3	1	1	79		
平成22年	34	1			1	2			30		
平成23年	34		1			1		1	30		HUS患者で型別不明が1例
平成24年	27							1	23	1	HUS患者で型別不明が2例
平成25年第34週まで	31	5							26		

年齢群別報告数の割合

